

ちばけんいち はらしりつとだしょうがっこう

学校名 千葉県市原市立戸田小学校

校長名 庄司 彰

所在地 〒 290-0221 千葉県市原市馬立 8 3 0



戦後、六・三制の教育改革により、戸田中学校の校歌・校章が制定され、後、小中の一貫性にもとづき中央の「中」を「小」にかえ、戸田小の校章とした。足元に梅枝の葉を置き、上半身横の『連手体側屈』は、協調と躍動を意味し、戸田体育の限らない発展を象徴するものとともに、「小」の中心は学問の象徴である本を形取っている。

TEL 0436-95-3321

FAX 0436-95-4429

E-mail toda-e@koumu.ichihara-chb.ed.jp

URL <http://www.ichihara-chb.ed.jp/toda-e/>

1. 研究主題

「児童一人ひとりができた喜びを味わう体育学習の在り方」
～全学年における器械運動を中心とした指導を通して～ 平成20～26年度
「一人ひとりができた喜びを味わう体育学習の在り方」
～器械・器具を使つての運動遊びと器械運動の指導を通して～ 平成27年度～

2. 研究の期間

昭和5年～平成27年度 86年間継続中

3. 研究の目的

器械・器具を使つての運動遊びと器械運動の指導を通して、技能の向上と、思考し表現する力を伸ばし、児童一人ひとりができる喜びを味わう体育学習の在り方を究明する。



伊藤貞蔵村長

本校の体育研究の歴史は、昭和と初期に遡る。不況や関東大震災による疲弊した戸田地域再興のため、当時の伊藤村長はじめ地域住民が「豊かな情操の育成は心身が健全な人づくり」が重要と

考え、「人づくり」は学校教育にあるとし、体育を中核に据えた学校づくりを始めたのが発端である。

昭和3年頃より校内での体操練習会を始め、村づくりを目標に産声を上げた体育は、三橋体育研究所の熱心な指導のもと、「体操は身をもって」を合い言葉に、生命体操の実践に切磋琢磨の日々が続いた。

創始10年、はだし・はだかの生命体操は、児童の体型や機能の向上に大きな変化をもたらし、体力や機能の優秀さは、軍医学校・厚生省等の調査で驚異的な結果として表れた。

戦後は、同一敷地内に建設された中学校とともに、小中一貫9カ年教育を掲げ体育研究を継続し、県指定の研究学校として、指導法やカリキュラムの構成、指導段階表の作成に取り組み、マスコミや報道関係に取り上げられた。

昭和23年、卒業生有志で結成された「戸田体操クラブ」

昭和23年、卒業生有志で結成された「戸田体操クラブ」

は、第3回福岡国体に出場し第3位に入賞した。60年以上経った今も、クラブの活動を継続し、後進の指導にあたっている。

昭和48年、統合のため中学校は閉校となる。



第3回福岡国体（昭和23年）

昭和5年に第1回体育公開研究会を開催して以降、戦中・戦後、昭和・平成と、社会が大きく変化しようとも、現在も毎年公開研究会を実施し、変わらず体育研究を継続している。

4. 研究の方法・実践内容

(1) これまでの研究主題

昭和5年～24年 研究主題不明

- 〃 25年「小中学校における体育の学習指導」
- 〃 26年「小学校における体育の評価規準」
- 〃 27年「中学校における保健体育段階指導」
- 〃 28年「保健体育における自主的活動の育成」
- 〃 29年「義務教育9カ年の体育指導の在り方」
- 〃 30年「小中学校における保健体育の発展的指導」
- 〃 31年「小中学校に於ける保健体育の基本指導のあり方について」
- 〃 32年「小中学校における保健体育の系統的指導」
- 〃 33年「総合敏捷能力に培う体育の基礎指導」
- 〃 34年「戸田体育30年の歩と今後の課題」
- 〃 35年～39年（5カ年）

「基礎的体力に培う体育指導」

- 〃 40年～41年（2カ年）

「体操による健康づくりの基礎指導」

- 〃 42年「意欲をもちあげる体育指導」
- 〃 43年「小中学校における学習指導をどう進めたらよいか」
- 〃 44年～45年（2カ年）

「小中学校における保健体育の学習指導をどう進めたらよいか」

- 〃 46年 同 上

－鉄棒運動の段階指導過程－

- 〃 47年 同 上

－体操領域における段階表作成－

- 〃 48年「小学校における体育の学習指導のあり方」

- 〃 49年～51年（3カ年）

「技能を高めながらの体育指導はどうあるべきか」



昭和 52 年～57 年（6 カ年）

「一人ひとりを見つめ、喜びとがんばりのある体育学習を求めて」

〃 58 年～62 年（5 カ年）

「体育の生活化をめざす学習指導のあり方を求めて」

—子どもが意欲を持って取り組む体育—

〃 63 年～平成 2 年（3 カ年）

「生涯にわたって健康体力づくりを目指す児童の育成」

—一人ひとりがめあてを持ち生き生きと取り組む体力づくり—

平成 3 年～4 年（2 カ年）

「主体的に体育学習に取り組む子」

—個に応じた学習指導の工夫—

〃 5 年～6 年（2 カ年）

「主体的に体育学習に取り組む体育指導を目指して」

—個に応じた学習指導の工夫—

〃 7 年～11 年（5 カ年）

「一人ひとりが主体的に取り組む体育学習を目指して」

—個に応じた支援・評価のあり方—

〃 12 年～13 年（2 カ年）

「一人ひとりが主体的に取り組む体育学習を目指して」

—子ども同士が互いのよさに気づき、認め合い、学びあえる体育学習を通して—

〃 14 年～16 年（3 カ年）

「豊かな関わりを求め、ともに学ぶ体育学習を目指して」

—子ども同士が互いのよさに気づき、認め合い、学びあえる体育学習を通して—

〃 17 年～19 年（3 カ年）

「豊かな関わりを求め、ともに学ぶ体育学習を目指して」

—互いのよさに気づき、認め合い、学びあえる体育学習を通して—

〃 20 年～26 年（7 カ年）

「児童一人ひとりができた喜びを味わう体育学習の在り方」

—全学年における器械運動を中心とした指導を通して—

〃 27 年度「一人ひとりができた喜びを味わう体育学習の在り方」

—器械・器具を使つての運動遊びと器械運動の指導を通して—

昭和 48 年以降は、小学校のみの研究主題となっている。時代の流れや学習指導要領の趣旨を踏まえながらも、技能・体力の向上をめざし、1 単位時間の中で全身をくまなく鍛える統体の考えを継続し、健康な体づくりを追究してきた。

(2) 平成 26 年度の実践

① 研究主題についての理論研修

「学習指導要領」と「学校教育目標」を念頭に研究主題の理解を深めた。

② 実技研修（職員体育・講習会の参加等）

ア 器械運動の系統性を踏まえた段階的指導や動きづくりの実技研修（職員体育）

イ 徒手体操や肋木・器械運動の実技研修



実技研修（徒手体操）



実技研修（跳び箱運動）

ウ 徒手体操や器械運動の実技研修（三橋体育夏季講習会）の参加

③ 体育授業研究会・公開研究会の開催

ア 年 2 回の校内体育授業研究会の開催

イ 体育公開研究会の開催（全学級展開）

④ 業間体育や体育的行事の運営

⑤ 体育環境の整備・充実

5. 研究の成果

(1) 低学年は、運動遊びの中に逆さ感覚・回転感



覚・重心移動感覚等、基礎基本となる運動を取り入れたことで、身のこなしがよくなり、技能向上へと発展した。

(2) 中・高学年は、スモールステップが明確な学習カードを活用し系統性を踏まえた段階的指導や動きづくりをしたことで、技能が向上し、できた喜びを味わうことができた。

(3) 運動の図や分解図（絵・写真）を活用し技のポイントを明確にしたことで、児童相互の教え合いや励まし合いの言葉かけが活発になり、学習意欲を高めることができた。



(4) 学習の中で児童の発表場面を意図的に設定したことで、思考し表現する力が伸び、ともにできる喜びを味わわせることができた。

6. 研究の意義と発展性

(1) 体育研究の長い歴史と伝統

児童の体育学習に対する意欲は高く、器械運動の技能に優れている。また、体育学習の学び方の定着や、より高い目標へと粘り強く取り組む態度の育成を図っている。

教師は実技研修を通して、技の系統性を踏まえた段階的指導や動きづくりを習得する校内体制が構築されている。

(2) 地域とともに創る学校

体育を学校運営の中核に据えた長年の実践は、学校だけでなく地域社会に深く浸透している。地域文化としての定着は、地域とともに創る学校の実現へと大きく寄与している。

(3) 自主公開の継続

昭和 5 年より自主公開を継続し、今年 86 回を迎える。県内外から多数の参観者を招いての研究発表は、情報発信とともに、本校の研究の深める場、さらに質の高い授業をめざす場と位置づけている。今後も戸田体育の充実・発展に向け継続的・実践的研究に努める。